

## 無病息災を祈願し奉納相撲

鷹島町の宮地嶽神社で9月14日、無病息災を祈願した奉納相撲大会が行われました。

阿翁地区（湯高成良区長）の主催で、同神社の例祭にあわせ毎年開かれています。

この日は、地区の子ども16人と青年団から10人が土俵入り。力のこもった取り組みに、観客から盛んな声援が送られていました。

湯高区長は「若者が減り、大会運営が難しくなっていますが、伝統の灯を消さないようにしたいです」と話していました。

また、今回初めて県の無形民俗文化財に指定されている「島踊」も奉納されました。



## おいしい野菜ができるかな

上志佐保育所（辻久敏所長）の園児が9月2日、同保育所横の畑で、生ごみを使った元気な土壌づくりに取り組みました。

食や命の大切さを知ってもらおうと計画しました。

この日は、3～5歳児13人が、生ごみから堆肥を作って有機野菜栽培に取り組んでいる「大地といのちの会」代表の吉田俊道さん（佐世保市在住）の指導を受けながら、土壌づくりに挑戦。園児たちは、「臭いっ!」と鼻をつまみながらも、1.5平方メートルの土と約30kgの生ごみを満遍なく混ぜ合わせました。

吉田さんは「土から生まれたものは土に戻すことが大切。生ごみには栄養がいっぱいです。園児たちも土が堆肥に変化する様子や、おいしく野菜を食べてみると興味を持ってくれると思います」と話していました。

2週間で生ごみと土を混ぜ合わせて堆肥にし、後の2週間で熟成させ、約1か月で土壌は完成。同保育所では10月にホウレンソウを植える予定です。

# まちの話題



## 挑戦する勇気を持って —小嶺総監督がエール—

県サッカー協会会長で、国見高校サッカー部総監督の小嶺忠敏さんが8月31日、松浦高校で「熱」と題して講演を行いました。

講演会は、同高生徒会が文化発表会の一環として開いたものです。

小嶺さんは、全国制覇まで20年かかったことなどを挙げながら「不可能と思うことにチャレンジする勇気を持ってほしい」と、夢や目標を持ち続ける大切さを講演しました。

講演後、生徒会長の中村杏奈さんが「心に留めておくべき大切なことに気付かされました」とお礼を述べました。

講演後、生徒会長の中村杏奈さんが「心に留めておくべき大切なことに気付かされました」とお礼を述べました。



## サトイモの花咲く

調川町下免にある吉本務さん（志佐・上町）の畑で9月中旬、サトイモの葉の陰から、鮮やかな黄色の花が顔をのぞかせました。

県北農業改良普及センターによると、サトイモは熱帯、亜熱帯が原産で、気温が高くない日本では通常、花は咲かないとのことで、長雨や急な気温上昇など気象状況が悪いときに子孫を残すために花をさかせることがあります。極めて珍しいとのこと。

サトイモを植えた吉本さんは「サトイモに、まれに花が咲くことは聞いていましたが、実際に見て驚きました」と話していました。



## 25社のそうめん流しに舌鼓

そうめん流しが8月21日、調川公民館で行われました。

同公民館の「夏休み子ども学級講座」の一環で、三世代の交流を目的に行ったものです。

この日は、地元の子どもやその保護者、老人会のメンバーなど約60人が参加。竹を使った約25社のそうめん流し台に流れるそうめんをすくい上げてほお張り、ひとときの涼を満喫していました。

参加した久恒生陽君（調川小2年）は「流れてくるそうめんを上手に食べられるようになりました。楽しくておいしかったです」と話してくれました。



## 鷹島町で「元寇記念祭」

元寇の犠牲者を慰霊する「元寇記念祭」（鷹島町青年団主催）が8月30日、鷹島町で行なわれました。

記念祭は、阿翁浦免に元寇記念碑が建立された大正4年に始まり、現在は宮地獄史跡公園に移された記念碑前で、毎年仏式と神式で交互に行われています。

この日は荒天のため鷹島モンゴル村研修センターで開催。神事のほか、友広郁洋市長や倉橋秀也青年団長があいさつをし、参列者約40人はめい福を祈りました。



## 子どもたちの力作を展示 —松浦市子ども作品展—

第1回松浦市子ども作品展が9月16日から18日まで、文化会館で開かれました。

作品展は、市内小・中学校の児童・生徒に対して、夏休みの研究や課題等の作品を募り、自主学習の発表の場とするとともに、創作活動における取り組みを奨励することを目的として開催したものです。

作品展には、カップ麺などの空き容器を使った作品や、特産品の旬あじの作品、新聞のスクラップに自分なりの所感を書き入れた作品などのほか、絵画、書、手芸など598点の力作が展示され、訪れた人は熱心に見入っていました。